

心と暮らしの余裕が生み出した

いのちのリフレッシュイベント

丹生茶わん祭

五年ぶりに、丹生茶わん祭が今年の五月四日に挙行されます。古い習慣や文化は長い年月の間にさまざまに変化し、真の意味が分からなくなるものです。改めてその意味を明らかにして、次世代に引き継ぐ…これは今を生きる私たちに課せられた大切な役割ではないでしょうか。そこで、丹生茶わん祭に秘められたものについて、丹生茶わん祭保存会の丹羽昭夫さんと滋賀県教育委員会文化財保護課の長谷川嘉和さんにお話をうかがいました。

主役は秘伝の技で組み上げた山飾り

地元で伝わる丹生茶わん祭のルーツは、その昔、末遠(余呉町橋本)に陶工がいて、その技を神から授けられた報恩感謝の心から毎年丹生神社に陶器を奉納したのが始まりだとされています。いつから始まったかは定かではありませんが、丹生神社由緒書によれば、永暦年間(一一六〇年)のころには既に盛大に行われていたとい

この祭りの主役は山車の上に高くそびえた「山飾り」。浄瑠璃、歌舞伎、伝説などに題材を取った芸題を陶磁器で表現、「一体どのような形に仕上げたの?」

と思える不思議な組み方で組み上げたものです。山車が進行中は両側から2本の竹竿(サスと呼ばれています)で支えています。竹竿を外し、ゆらゆらと揺れながらも倒れ落ちそうに倒れ落ちない姿に観

客から歓声が上がります。山飾りの組み方は門外不出の秘伝の技。製作中は関係者以外の立ち入りは禁止されています。

このほかこの祭りは「後ろ向きにおどる姿」や「お囃子の先頭に棒振りがあること」など、室町時代、中世の名残が見られる点も魅力になっています。
心と暮らしの余裕、風流の心意気
丹生茶わん祭の醍醐味は「風流」の心にあります。読みは「ふうりゅう」では

なく「ふりゅう」。高価なものや日常生活では出会えないものを見せて人々を驚かす趣向のことです。

かつて、農民や職人の普段の生活は単調なものでした。単調な日常生活が延々と続けばどうしても生きるパワーが枯れてきます。時々是非日常体験によって生命力をリフレッシュする必要があります。丹生茶わん祭は風流の非日常体験で生命を再生する祭りだったのでした。



永宝山、壽宝山、丹宝山の3基の山車。組み立てには、金物やロープ使わず藤藪で締め付けます。



▲舞子 稚児の舞には、「神子の舞」「扇の舞」「鈴の舞」があります。この舞の「後ろ向きになり、後退しながらまう形」は中世の舞の名残りだそうです。



▲花奴 遊部行列の一番の花形は花奴道中。江戸時代の末期から行われるようになったもので、奉賛の唄や奴音頭に合わせて踊ります。



▲神輿



▲金棒・新神主・長刀振り
金棒は神輿の警護の役目、梅の枝を持った新神主は神輿を先導する役目です。



神と共に生きた先人たちの素朴な心

もちろん丹生茶わん祭が、祭り本来の「神を迎える神聖な行事」であるのも確かです。祭りの最初には参加者が高時川に入って禊(身を清めること)をします。山車にそびえる松の木はお正月の門松と同じく神を迎える依代としてのもの。最初にここへ神の降臨を仰いでから祭りが始まります。さらに山車は神聖な川・高時川に架けた橋を渡って神社へ向かいます。丹生茶わん祭は先人たちの素朴な信仰と風流による生命のリフレッシュと結びついたお祭りだといえるのです。

その理由の一つは、使われる焼き物が素焼きではなく陶磁器である点。中国から入ってきた陶磁器は、美しく輝き、洗えば何度でも使える高級で珍しい品物でした。陶磁器を見せるだけでも人々の驚きと賞賛を誘うのですが、さらに、倒れ落ちそうに倒れ落ちない不思議な仕掛けで物語として見せる…まさに風流の心です。

その他、「綴錦見送り幕」といわれる山車の高欄の背後に吊るす幕は贅沢品の高価な織物、また、大太鼓の打ち手が背負っているのもこれまた高価な帯(わざわざ)垂らして柄を見せる形で背負います。他にも、これまた風流の心のあらわれです。風流とはある意味で、余裕を楽しむ心意気であり、お金や心の余裕があった証です。では、なぜこの地にお金や心の余裕があったのでしょうか。農業や職人の生業だけでは生活するのに精一杯だったはずで

一説では、かつては北国街道がこのあたりを通っていたからだといわれています。現在の北国街道のうち椿坂の峠は、柴田勝家の手で開かれた比較的新しいルートだといわれています。それまでは別のルートでの丹生附近を通っていたとみられます。街道筋なら宿場や飯屋などの第三次産業が育ち、経済活動が活発化し、お金が回っていたのではないかと想像できます。現在も、在所の人たち全員の毎月の積み立てにより祭りは運営されています。

5月4日 丹生茶わん祭のご案内

タイムスケジュール

- 10:00 大祭執行(丹生神社2座)
- 11:00 稚児の舞奉納 花奴の奉納
- 11:30 神輿神幸 曳山鳥居前に集合
- 13:30 鳥居前の儀式
- 14:30 神輿御旅所着御 (八幡神社) 御旅所祭礼執行 茶わん祭大要説明 山車支柱取外し
- 14:45 稚児の舞奉納
- 15:30 還 幸
- 16:00 神輿本社着御の儀
- 16:30 神輿入御

周辺MAP



交通のご案内

- マイカーご利用の場合
木之本1.Cから国道365号を北上、余呉町役場手前の信号を右折。
※現地駐車場満車の場合ウッデイバル余呉に駐車してください。(臨時バス運行あり)
- JRご利用の場合
①JR北陸本線余呉駅に巡回バスあり。(30分間隔で運行)
②JR北陸本線木之本駅に湖国バスあり。(当日臨時バス運行あり)

問合せ先 余呉町役場
TEL(0749)86-3221

Data



茶わん祭の館
伊香郡余呉町上丹生3224番地
TEL・FAX 0749-86-8022

山飾り
山飾りは5-6mまで積み上げます。今回の芸題は、宮本武蔵、鍋島騷動、浦島太郎です。